

まんのう町教育委員会だより

爽風

そうふう

子どもの健やかな成長を願って

平成31年〔2019〕

2月1日発行

Vol.11

Contents

- P.2-5 特集 社会に目を開く
～職場体験学習で自らの生き方を考える～
- P.6 こども美術館
- P.7 シリーズ 家庭教育を考える
- P.8-9 園・学校ウォッチング
高篠小学校・仲南こども園
- P.10 シリーズ 読書のすゝめ
- P.11 関係機関から



いらっしゃ〜い! 楽しいよ

～高篠小1年生が5歳児を「秋ランド」に招待～
(8ページに関連記事)

職場体験学習に 期待すること

1 働くことの意義
を知り、勤労への
意欲を育てること

2 役立ち感や
新たな可能性
などを感じ、
自分への理解
を深めること

3 社会人としての
基本的マナーや言
葉づかいなどを身
につけること

4 学校での学習がな
ぜ大切なのか、社会
でどのように役立つ
かを知り、学校と社
会がつながること

職場体験学習当日まで

- ① 約50の事業所の中から、それぞれの生徒の希望をもとに調整して、職場体験する事業所を決定する
- ② お世話になる事業所に学校から正式に依頼を行い、その後、生徒本人も電話をかけ、重ねてお願いをする
- ③ 自分で作成した履歴書を持って事業所を訪問し、準備物や心構え等について指導を受ける

★ 満濃中学校では、この準備期間に講師を招いて「マナー講座」を開催し、仕事に対する心構えや電話のかけ方、職場体験先でのマナー等についての指導をしています。

こども園

不安の初日と笑顔の最後

2年3組 堀川 愛莉

初日早々に小さな子を泣かせてしまった。小さな子は大人のように、話せば何でも聞いてくれるわけじゃない。先生たちは本当にすごいなと思った。自分が小さかった頃世話してくれた先生たちに、感謝の気持ちを持たせて。3日間同じことを繰り返すことで、一つ一つの意味と大切さが分かっていく。読み聞かせ、子どもを喜ばしつづける。最初は嫌々やっていたフランクを押すことも意味がある。職場体験をやってみて、そういうところに気がつく。これからの行事や行動にも、一つ一つ意味があると思う。取り組んでいきたいです。

飲食店

人のために働く大変さと大切さ

2年2組 渡里 伊紗

食事の運搬の大変さやお店の仕組みを学びました。お客様への接客の仕方やきれいに掃除をする大変さが分かり、努力して挑戦してみようと思えました。はじめの方は緊張してできなかったことも、少しずつ慣れていくことで恥ずかしさがなくなり、思い切って動けました。3日間の学びは自分が職業に就いて働くまで覚えておき、将来に生かしたいです。また、「働く」ということはすごく大変なことだと学んだので、あらゆる場面で感謝して、生活していきたいです。将来に生かせる職場体験学習ができました。

朝がくる

まど みちお

朝がくるとこびきり、ぼくが作ったのでもない水道で顔をあらうと、ぼくが作ったのでもない洋服をきて、ぼくが作ったのでもないごはんを、むしゃむしゃたべるそれから、ぼくが作ったのでもない本やノートを、ぼくが作ったのでもないランドセルに、つめて、せなかに、しまつて、さて、ぼくが作ったのでもない靴を、はくと、たったか、たったか、でかけていく、ぼくが作ったのでもない道路を、

ぼくが作ったのでもない学校へ、あんなのために、

いまに、おとなになったなら、ぼくが作ったのでもない、なにかを、作ることが、できるように、なるために

自分が計り知れないほどたくさんの人々の仕事に支えられて生かされていることに感謝し、いつの日か自分も社会の一員として誰かを支えられる存在になれるよう、一日一日を大切にこれからの中学校生活を送ろう——職場体験学習は、そんな思いを育むひとつのきっかけを与えてくれます。



現代の子どもたちは、インターネットやテレビ等を通じた間接体験は豊かですが、ヒト・モノや生活に実際に触れたりかわったりする直接体験は著しく不足しています。また、核家族化や都市化が進む中で異世代とかかわることが減少し、あいさつができない、言葉づかいを知らない、コミュニケーションがうまくとれない若者が増えているという指摘もあり、これが高い離職率の一因であるとも言われています。

このような状況の中、職場体験学習は、子どもたちが直接働く人と接し、自らの将来や生き方を考えることのできる貴重な直接体験の場になっています。

満濃中学校では、毎年2年生が3日間の職場体験学習を行っています。

設備工事会社



作業の補助

自動車整備工場



バッティングセンター



ネットの修理

農業大学校



きゅうりの収穫

集荷場



ブロッコリーの箱詰め

理容店



技術の練習

小売店



品物の陳列



棚の組み立て

通所施設



付き添う

動物病院



見守る

こども園



ドライビングスクール



仕事に必要な知識を学ぶ

消防署



飲食店



開店準備

食品会社



試作品づくり

ホテル



売店の準備

町立図書館



出張図書館で本の貸し出し

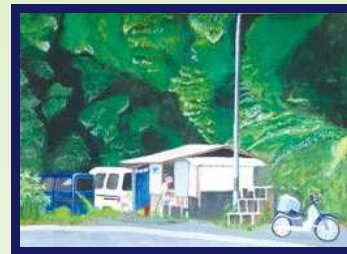
職場体験レポート

11月14日(水) ~16日(金)

職場体験学習に真剣に取り組む

満中生の姿を追いました

※ ここに掲載した以外にも、たくさんの
事業所にお世話になりました



『山のおばあちゃんの手作り茶屋』
満濃中1年 三井 菜津美



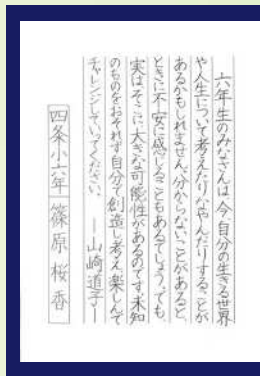
『野口ダム』
満濃中3年 西原 朋希



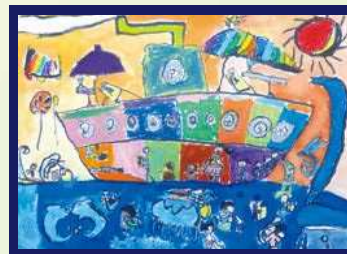
『ひみつきち』
四条小3年 上地 愛琉



星夜ふ
四条小5年 三谷 直穂



竹笛
仲南小4年 細川 千峰



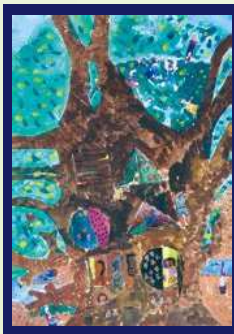
『チャイナへいくふね』
長炭小1年 吉本 夏菜



『宇宙旅行』
琴南小3年 橋本 心愛



世界遺産
満濃中3年 大池 隆斗



『大きな木の家』
長炭小3年 高橋 愛紗



『明るいなかよしの花』
高篠小4年 森浦 一稀



『こびとの世界』
長炭小4年 綾井 瑞希



『あいさつがとびかう高篠小学校』
高篠小6年 門田 渚沙

家庭教育を考える④

人生観の確立した大人の存在

年を重ねると過去を振り返ることが多くなるものです。人生の「節目」で振り返って悩んだことや、殊の外うまくいって感動したことなど、なつかしく思い出されます。

八方塞がりや解決の見通しの立たないことが多々ありましたが、そんな時、心のよりどころにしたことは、母から教えられたことばかりです。母の口癖は、「心配しないで何とかなるものだ」「とにかく頑張れ。八方塞がりでも青い顔をしていこう」と。

「あなたが頑張らないからそうなるの」とは言わなかったように思います。追い込まれている息子に、さらにダメージを与えても立ち直るはずはありません。

「何とかする」「何とかして」「何とかして」心には、ほんの少しゆとりができたように思います。

「当たり前で砕ける」とか「一歩前進すれば、次の一歩が見えてくる」とか「この世で起きたことは、この世で解決できる」とか、よく言っていたように思います。当時その意味はよく分かりませんでした。大人になつて考えてみますと、なるほど」と思うことが多々あります。これもまた母の存在は全てだったと思います。よくよく考えることがあり、行動をおこすと先が見えてくるという感覚で、今でも私の生き方の一つになっています。

親としては、星の数ほどふりかかる苦労の多い人生を何とか乗り切ってほしいという思いから「人生いかに生きるべきか」「人生いかに乗り越えるべきか」自分の人生経験から教えていたのだと理屈めきてそう思いますし、ありがたいことだと思えます。短い人生を一生懸命に生きた母には感謝しております。

わが国の国語教育の第一人者で、数年前に九十九歳で亡くなった大村はま先生が、著書「教えるが教えられるなら」（共文社：1989年）の中で示唆に富むことを書いておられます。

お母さまの役目について

「お母さまの役目、仕事についてものは、教師とは違っていることを、どうしたらわかっていただけたかということが、私の悩みになりました。」
「ときり出され、ついでに」
「お母さまは先生の助手なんかではありません。お母さまはお母さまで、立派な別の仕事をなさる人なのです。人を育てるということにおいて通じていることばかりであり、先生の真似事をするようなことは、決して本物ではないのです。世の中に張り出すことを、そのこととは、しっかりと、厳しく、本物の人生観を育てなければならぬのです。」

「それば、それはできる」の一点張り、で、できなりの見、やらないあなたに責任をいかに持つには、そういつた気持ちで、すべて、この手の努力のなさにみる、そのいかに、お母さまを見れば

るといことは、残念なことですが、これもかわいそうなことです。また、そういつた目でこの世を見ていては、人間は育たないように思います。」と述べ、
「漠然とした点数や偏差値などを追いつながら、こどもを励ましたり叱ったりしている状態は不幸です。」と結論づけています。

人の見方、人生の考え方をしっかりと持っていてほしいと思います。こどもにとって、いちばん力強いのは、その親の確立した大人の存在ではないかと思うのです。そういう人が、そこにちゃんと座っている、こどもはたいへん幸せですが、それが揺らいでしまっている状態は不幸です。

私は、こどもにとって幸せなことは、一人でしっかりと生きていける人間に育てられていること、いかに幸せなことではないかと思っています。

(教育長 三原 一夫)



園・学校

ウォッチング

地域へ出かける機会を
できるだけ設けて、地域
の様子を知ったり、地域
を支える人々の仕事や思
いに気づいたりできるよ
うにしています。

どの子どもを輝かせて活動し、地域の新しい
力を発見することができている。

自分について考える

2年生が高篠駐在所を見学に行きました。
日頃の交番の仕事について教わるだけでな
く、様々な道具を見せてもらい、警察官の仕
事に興味津々でした。

4年生は仲多度南部消防署の見学に行き、
司令室の役目や救助が必要な人を助けるた
めの方法を実際に体験しました。隊員さんた
ちが迅速かつ確実に動く姿に、びっくりして
いました。

子どもたちは私たちの生活の「安全」に安
心を守るために活躍している人たちの姿に
感動し、自分ができることを考えて実践しよ
うとする気持ちになりました。見学や体験
をさせていただいた後は必ず
お礼の手紙を出
し、学んだこと
やお世話になっ
たことについて
自分の気持ちを
伝えるようにし
ています。

消防隊員さんとともに



駐在所員さんとともに

豊かな「かわり」を大切に

～地域と共に生きる～

高篠小学校



介護福祉体験



グループホーム「よりあい」での交流

相手を思いやる心を育てる

5年生は毎年、近くのグループホーム
「よりあい」を訪問し、高齢者の方々と
触れ合っています。ともに楽しい時間を過
すごす活動を行っています。

家庭でおじいさんやおばあさんと同居
している子は少なく、これまでの訪問で
は、高齢者との接し方が分からなかった
り、自分の目線で物事を考えてしまっ
たりすることが多くありました。そこで、
今年度は、訪問前に介護福祉体験の時
間を設定しました。

手の感覚が鈍って思うように手先が使
えなかったり、視野が狭くなったり、耳
が聞こえにくくなったりする体の状態を
体験することで、高齢者の立場に立つて
気をつけることや活動内容を考えるこ
とができ、それを訪問の計画に生かすこ
とができました。

当日は高齢者の方に喜んでいただき、
子どもたちにも笑顔があふれていまし
た。今後も訪問を重ねて、さらに相手の
ことを考えられる心を育てていきたい
と思います。

進んで自然や人とかわる

1年生と2年生は、地域にある「富
神社」へ秋を見つづけに行きました。そ
で落ち葉や木の葉を拾い、学校に持ち
帰りました。

子どもたちが直接自然に触れる機会や
季節の変化を実感する場面は少なくな
っています。そこで、実際に野外に出かけ、
自然の中に身を置くことで、
自然の不思議さや面白さ
に気づく機会を積極的に
に設けたいと考えていま
す。

持ち帰った自然物の
特性を生かして、1年生
はおもちゃつくり挑戦
しました。フリスビー、
玉、楽器、トンネル、迷
路等、秋のイメージのおもちゃが出来上が
りました。



秋を見つけたよ

そこで、この高篠の5歳児さんを招待
して、「秋のふし」を開催。
5歳児さんの気持ちを考えながら活動
したり、説明の難しさを感じたりなが
ら自分を振り返り、成長している自分
も気づくことができました。

これから地域の方々のご支援をい
ただきながら、「人」「もの」「自然」「行
事」等この「つながり」を大切にしま
活動を継続していきたいと考えていま
す。一人一人が、地域の「一員」として
の自覚を持ち、地域を愛し、活躍でき
る人になってほしいと願っています。

子どもの夢や思いをかなへ

園庭にある築山から紙飛行機を飛ばす5
歳児の子どもたち。

できるだけ遠くへ飛ばそうと、友だちと
一緒に折り方を工夫したり輪ゴムをつけた
り、いろいろなアイディアを出し合ってい
ます。

紙飛行機の折り方を調べて、
「ここをきちんと折らな、遠くへ飛ばん。」
「指をささぐ離して、斜めに飛ばしたらえ
えよ。」

などと、友だちと何度も試したり作り直
したりしている姿は、真剣そのものです。明
治時代、二宮忠八翁が少年期に抱いた大空
への大きな夢は、今の子どもたちにも受け
継がれているようです。

この紙飛行機、園舎内の広く長い廊下で
も飛んでいます。小さいクラスの子もた
ちが、手に持って走ったり飛行機を追いか
けたりして楽しんでるのです。

遊ぶ場所が離れていても、互いにどんな
遊びをしているかをよく知っています。同
じ思いをもって取り組んでいる姿から、心
のつながりが生まれていく過程が見えてき
ます。

そして、その傍らにはいつも、一緒に喜
んだり励ましたり
共感したりしなが
ら子どもたちを見
守る保育者の温か
いまなさがあ
ります。

飛べ！紙飛行機



感じるころ はずむからだ

～心地よいかかわりの中で
ともに育つ～
仲南こども園



秋を満喫

触れて感じて遊ぶ

秋が訪れると、
「見てきたよ」
と色づいたイチヨウやモミジの葉っぱ、
トングリの実を拾ってきます。落ち葉を
集めてその感触を味わったり、ハットホ
トルに木の葉を入れ、それを振って音を
楽しんだりします。

また、まごやとお祭りのお店屋さん
ごっこなどをして遊んでいると、発想が
どんどん膨らみ、葉っぱの冠や王女様の
ドレスにもなっています。

「私は、もつと長いスカートにしたい。」
「葉っぱのマント、かっこいい。」
次々と工夫を重ねていく4歳児。

こうした遊びの中で、自然と形の違い
や色の美しさに気づくなどの「学び」が
生まれ、それが深まっていくのです。

心をつなぐ絵本の世界に浸る

お話を聞くのが好きな子どもは、自分
で話すのも好きです。読んでもらった
絵本や物語の世界を再現して遊びます。
3～5歳児が、昔話「う
らしまたろう」をイメージ
しながら、海の生き物
を作りました。

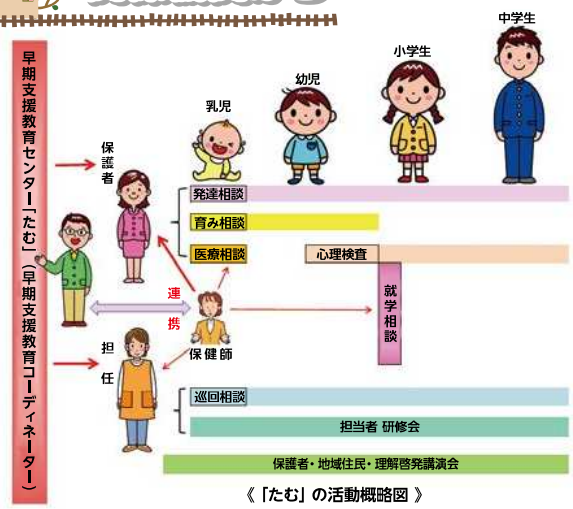
「屋根は、この方がお城
みたい」
と、竜宮城の屋根には卵
バックを使いました。小
さい時に着ていた服や布
を家から持ってきて、浦
島太郎や乙姫を作った



イメージを膨らませてっっ



関係機関から



《「たむ」の活動概略図》

また、子どもたちや保護者が学習の困難に気づいたときは、その原因が認知特性の歪みからくることもあれば、個別の心理検査によってその原因を探り、支援の手がかりについてアドバイスします。

また、対人関係や行動上の問題が見られる場合は、担任は「巡回相談」によって対応方法を助言し、保護者へは「発達相談」でかわり方をアドバイスします。

特別な「特別支援教育」③

まとめとなる今回は、まんのう町においてどのような取り組みがなされているかを、左図を参考に話していきます。

まんのう町には、相談支援機関として「早期支援教育センター「たむ」」が、平成27年度に設置されました。ここでは、年齢段階別に次のような取り組みをしています。

乳幼児期は、「気づきから支援へ」をキーワードとして、保健師さんとも連携しながら取り組んでいます。

このまんのう町の先生方に研修を行い、各年齢段階の子どもの困難の見取り方を伝えます。また「たむ」の職員が巡回相談を行い、実際の子どもたちの様子についてアドバイスしています。

一方、保護者には、講演会やパンフレットで気づきを深めてもらい、心配なことがあれば「たむ」の職員が巡回相談や「医療相談」を直接電話で、あるいは担任を通して申し込むことができます。また、各園で一斉に行われる「育み相談」や「就学相談」などの機会を利用して相談する子どももいます。特に就学に際しては、学習についての心配事も多いため、保護者が希望すれば個別の「心理検査」を受けることもできます。

小学校では、「つまづきから支援へ」をキーワードに取り組んでいます。

担任や保護者が学習の困難に気づいたときは、その原因が認知特性の歪みからくることもあれば、個別の心理検査によってその原因を探り、支援の手がかりについてアドバイスします。

「劇団トマト座」の公演

—「子ども未来夢基金」活用事業—
(綾歌総合文化会館アイレックスにて
11/7・8、12/18)



「オズの魔法使い」～虹の彼方へ～
(全小学校3～6年生が鑑賞)



「ひめゆり」～美ら海からの伝言～
(満濃中学校全生徒が鑑賞)



新人戦でも大活躍！満中生

■ 郡市新人大会 (団体の部: 優勝・準優勝)

部活名		結果
剣道	男子	優勝
	女子	優勝
軟式野球		優勝
バレーボール	男子	優勝
	女子	優勝
卓球	女子	優勝
ソフトテニス	女子	優勝
サッカー		準優勝
バスケットボール	男子	準優勝

■ 郡市新人大会 (個人の部: 優勝)

部活名	結	果
卓球	女子ダブルス	優勝 大森 亜実 大西 彩巴
バドミントン	女子シングルス	優勝 折目 愛奈
ソフトテニス	女子ダブルス	優勝 増田 菜々 高橋ひかる



全日本ジュニア新体操選手権大会
個人総合3位 竹内 希さん



ジュニアジャパンカップ
個人ダブルス2位 高橋ひかるさん
(青森県の選手とのペアです)

■ 県新人大会 (3位まで)

部活名	結	果
剣道	男子団体の部	優勝
	女子団体の部	準優勝
ソフトテニス	女子団体の部	3位
	女子ダブルス	優勝 増田 菜々 高橋ひかる
新体操	種目別クラブ	2位 竹内 希
	個人総合	2位

※ 卓球は1月12日～13日、バレーボールは1月26日～27日に県新人大会があります。



砂がついたね！
きれいきれい

仲南こども園にて(9ページに関連記事)

編集後記

今回、職場体験学習を特集するにあたって、たくさんの方の事業所を訪ねさせていただきました。ちょっと緊張した面持ちで一生懸命取り組む生徒たちの姿はほほえましく、また、さわやかでしたし、どこに行っても、そんな彼らを温かく見守ってくださる事業所の方たちに出会いました。

生徒一人一人に寄り添いながら仕事の内容を説明したり、必要な知識を伝えたり。また、実際に仕事を手伝わせたり、一人でやらせてみたり……。自分の仕事を抱えているにもかかわらず、それを横に置いて、やさしく気長につきあってくださる姿に頭が下がりました。

横においたその仕事は、生徒たちが帰った後に残るでしょう。また、どうしてもその時間にしなければならぬ仕事は、きつとその日だけ、どなたかが肩代わりしてくださっているにちがいありません。

さらに、生徒に大切な仕事を手伝わせる、あるいは一人でやらせるということは、もし万が一、何か不慮があつてお客様などからクレームが来るようなことがあつても、その事業所の代表者がそれを引き受けるという覚悟がなければできません。

そのような覚悟を持って、大切な時間を3日間(事業所によっては2日間)も生徒のために提供してくださったことに、心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

職場体験学習は、この世にあるさまざまな仕事でどれも人を幸せにするために、また、私たちの生活を豊かにするためにあるかけがえないものであるというところに気づかせてくれたはずで、生徒にとって、働くことの尊さを感じ、自らの生き方を見つめ直す貴重な機会となったに違いありません。

特集

次号(4月1日発行)予告
変わり始めた就学前教育

※ こども園で夢中になって遊ぶ子どもたちと、それを支える保育者の姿をお伝えします



図・学校ウォッチング

- ・四条小学校
- ・高篠こども園